

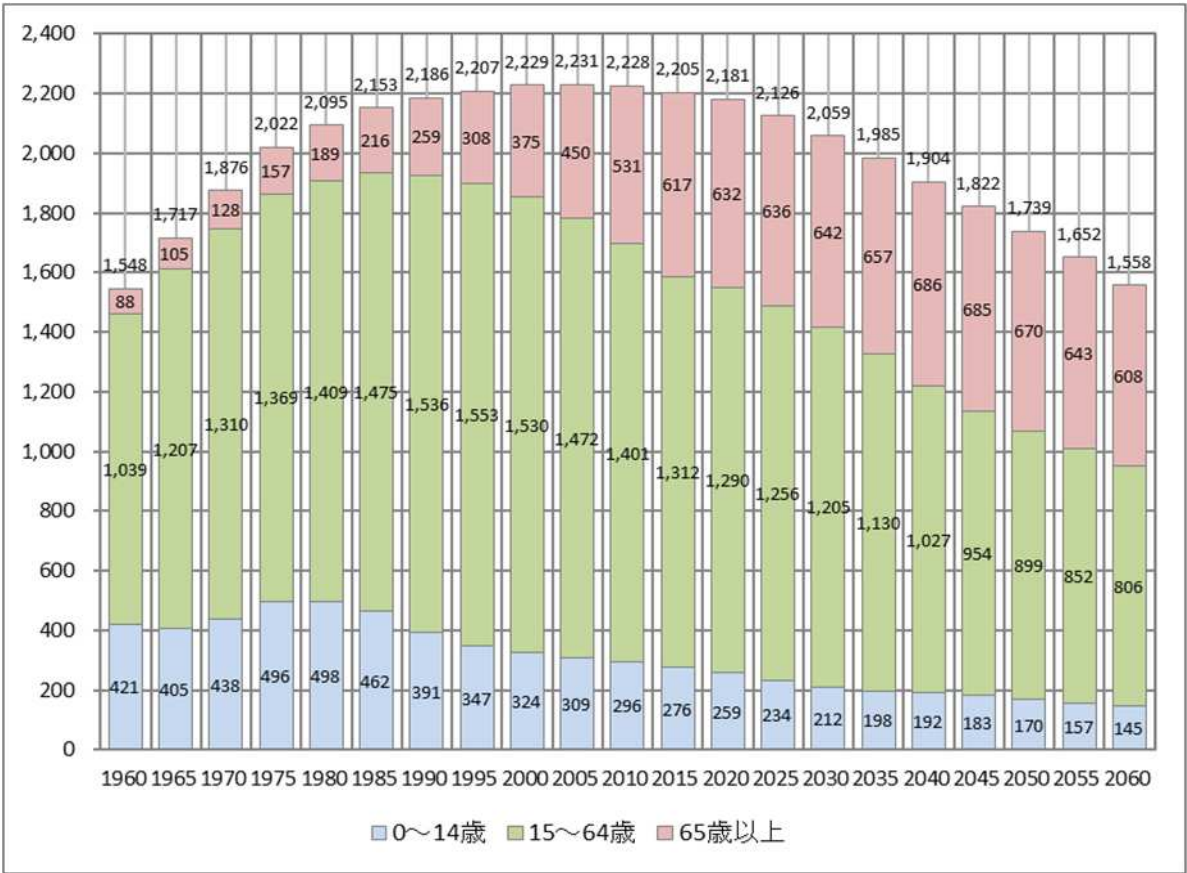
【関西の総人口】（令和7年2月更新）

・2020（令和2）年 約2,181万人 → 2060（令和42）年 約1,558万人

（単位：人）

区 分		2020年(実績)	2050年（2020年比）		2060年（2020年比）	
総 人 口		21,814,407	17,387,705	▲20.3%	15,583,725	▲28.6%
年 齢 階 層	年少人口(15歳未満)	2,592,878	1,701,856	▲34.4%	1,452,886	▲44.0%
	生産年齢人口(15歳以上65歳未満)	12,897,617	8,988,444	▲30.3%	8,055,133	▲37.5%
	高齢人口（65歳以上）	6,323,912	6,697,405	5.9%	6,075,706	▲3.9%

関西圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県



（出典） ・1960年～2020年まで
・2025年以降
・2055年以降

総務省「国勢調査」（実績値）
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」
国立社会保障・人口問題研究所に準拠し広域連合で試算
（自然増減・社会増減については、2050年の国立社会保障・人口問題研究所推計値をそのまま延伸）

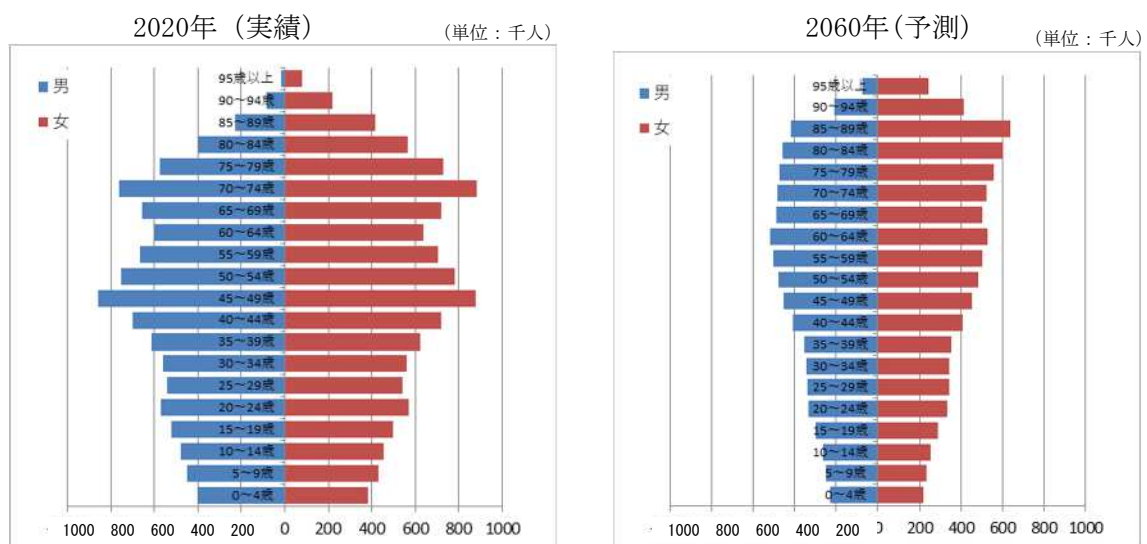
【年齢階層別人口】（令和6年2月更新）

- ・2060年には65歳以上の高齢者が占める割合が約39%となる。
- ・年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は減少し続け、それぞれ約9%と約52%まで低下する。
- ・年齢階層別の割合の変化は、全国平均とほぼ同じ推移となる。



（出典）総務省「国勢調査[年齢(3区分) 別人口]」（1960年から2020年までの実績値）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（2020年以降の推計値）、2055年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」に準拠し広域連合で試算

【人口ピラミッドの変化】（令和6年2月更新）



（出典）総務省「国勢調査」（1960年から2020年までの実績値）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（2025年以降の推計値）、2055年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」に準拠し広域連合で試算